

山口県病院協会 会報

2015 **10月号** No.49

- 発行日 平成27年10月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



周防大島町立東和病院

〒742-2921

山口県大島郡周防大島町大字西方571番地 1

電 話 0820(78)0310 (代)

F A X 0820(78)1885

URL : <http://www.kouei.so.ecomas.jp/towa/>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
病院スタッフコーナー	4～5 ページ
医療懇話会報告	6 ページ
諸会議報告	7 ページ
事務長部会コーナー	7 ページ
お知らせコーナー	8 ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



周防大島町立東和病院
病院長 篠原 健次

当病院はベッド数125であるが患者の減少、医師、看護師の不足により病床稼働率は80%前後である。一方、行政では地域医療構想が考えられており、近い将来病床数の削減が計画されている。

常勤医師は常に不足している。また新専門医制度が発足すると益々地方に医師を派遣することが困難になることが危惧される。

この地域に最も重要なものは地域包括医療、ケアである。患者さんの多くは老老介護あるいは独居であり、また入院患者は寝たきりが多い。当院ではケアマネジャー、給食、リハビリ、検診、地域医療連携などの優秀なスタッフがそろっていて、入退院前後の支援を包括的におこなっている。また認知症の患者も増加しており今後の重要な問題である。これらは町作りの構想そのものであり行政、介護施設とのかかわりの中で構築されるものである。

地方の病院だからそこそのレベルの医療を提供すれば良いというわけにはいかない。できる限りのことをして専門外の患者は島外の機関病院へ紹介している。

経営的にも慢性的赤字を抱えているが、持続可能な医療の提供には健全財政が必要である。医療、福祉にかかる経費の増加のために国は莫大な財政赤字を抱えている。患者、家族も次世代に負債を残すのではなく、応分の負担をすべきである。

高齢化は日本のどこでも進んでおり、この地区特有のものではなく他地区より10年—20年進んでいるだけである。また高齢者特有の疾患がある。若手医師においては当地は絶好な地域医療に関する研修の場であり、また情報を発信できるようにしたいものである。

〈周防大島町公営企業局 周防大島町立東和病院の現状〉

1) 概要

住 所 山口県大島郡周防大島町大字西方571番地 1
電 話 0820-78-0310（代表）FAX 0820-78-1885
E-Mail touwa@suo-kouei.com
URL <http://www.kouei.so.ecomas.jp/towa/>
病 院 長 篠原 健次
診 療 科 内科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、循環器科、発達小児科
病 床 数 125床（一般病床：15対1入院基本料）
付 属 機 関 居宅介護支援事業所とうわ
認 定・指 定 救急告知病院、労災保険指定病院、結核検診委託契約医療機関、身体障害者福祉法指定医、生活保護法指定医療機関、原子爆弾被爆者一般疾患指定病院、指定自立支援医療機関、特定疾患治療研究受託病院、難病医療費助成指定機関

2) 沿革

昭和49年2月 大島東部病院開院
（第2次近代化計画に基づき、2つの病院を統合し、一般病床50床、結核病床30床、計80床、診療科目9科で開院）
昭和51年8月 一般病床68床、結核病床30床 計98床となる。
昭和54年3月 一般病床96床、結核病床30床 計126床となる。

昭和54年8月 一般病床103床、結核病床28床 計131床となる。

昭和56年4月 一般病床131床となる。
昭和58年3月 東部病院附属健康管理センター新築
昭和62年11月 全身用X線コンピューター断層診断装置設置
平成7年12月 西病棟（71床）増築
平成8年6月 東病棟（60床）改築
平成12年4月 居宅介護支援事業所とうわ開設
平成14年3月 人工透析室完成
平成15年3月 MRI室完成
平成16年10月 町村合併により、大島郡国民健康保険診療施設組合から周防大島町公営企業局となり病院名も東部病院から周防大島町立東和病院に改称

平成25年12月 電子カルテ導入
平成26年4月 東病棟（54床）改築 計125床となる。

3) 特徴

総病床数は一般125床（東病棟54床、西病棟71床）で、1日平均入院患者数91人、1日平均外来患者数171.9人です。（平成26年4月～平成27年3月末累計）
主要な設備及び機器としては、人工透析室、クラス100のバイオクリーンルーム手術室、マルチCT、MRI等であります。周防大島町の高齢化率は平成27年7月現在で50.88%と老人の多い地域です。通院が困難な地域住民のために患者送迎バスを運行しており、外来患者の3割程度が利用しています。周防大島の町民が少しでも安心して暮らしていただけるよう、職員一丸となって住民の医療確保に努力している次第です。

協会役員コーナー

変わるセカイ



社会医療法人
尾中病院

理事長 尾中 宇蘭

理事長として病院の経営を担うようになって10年余り。現代の医療が日進月歩であることはもとより、毎年のように様々な医療制度の変更や診療・介護報酬の改定があり、医療の世界が常に変わり続けることには馴染んだつもりであった。しかしここ数年の医療を取り巻く情勢の変化は、かなり大きいものだと感じている。地域医療構想（ビジョン）、病床機能報告制度、地域包括ケアシステム、地域医療連携推進法人、外部監査導入、医療事故調査制度、看護師の特定行為、マイナンバー制度導入、ストレスチェックの義務化等々…現在私の頭の中で渦巻いているこれらのキーワードの多くは、数年前には影も形もなかったか、少なくとも今のような重要性は持たないものと考えられていた。昨年成立した医療介護総合確保推進法に基づいて、いくつもの施策が矢継ぎ早に策定され、医療・介護界は急速な対応と変革を求められている。さらに本稿が掲載される頃には、医療法改正法案が参議院を通過し成立している筈である。未曾有の高齢化を端緒として医療界のみならず、社会が大きく変わろうとしているこの時代。我々地域の医療者に出来ることは何なのか。当院でも様々な検討やシミュレーションを繰り返しているが、満点の解答は容易には見つかりそうにない。一人ひとりにできること、一つの医療機関にできることには限りがあり、地域社会全体での取り組むことの必要性を痛感している。一人の医療者として、出来るだけ多くの人々と連携・対話しながらより良い未来を模索したい。

プレミアム商品券と地域医療構想



山口県厚生農業協同組合連合会
周東総合病院

病院長 馬場 良和

先日、広島市よりプレミアム商品券の当選通知ハガキが届いた。広島市のプレミアム商品券はハガキかインターネットで誰でも応募できる仕組みで、帰省中に夫婦で応募したものだった。柳井市のプレミアム商品券は8月に売り出しがあり、初日は炎天下に発売の1時間前から並び、やっと手に入れることができたい。その後3日間の売り出しでは、日に日に行列が長くなったとのことだった。一方、広島では一緒に応募した両親も当選しており申し込んだ4名中4名とも買うことができた。これは広島市のプレミアム商品券の売り方が抽選方式で公平なため、確率が高くなったが、柳井市の先着順では、4日間炎天下に早くから並ぶ体力と資金力のある人間が重複して買った可能性が高いと考えられた。貴重な税金がこのような思い付きの政策で使われると考えると、少し

不愉快になった。

現在、柳井医療圏でも地域医療構想策定協議会が開かれている。県から配布された資料は、もっとも緩やかなものでも慢性期の療養病床を10年後までに約40%削減するといったものであった。療養病床から転換型老健に変更することは、その病院の経営に大きな影響を与えるだけでなく、老年の親の介護や、地域の雇用にも大きな影響が出る事が出席者から問題提起され、協議会は沈鬱な雰囲気になっていった。地域医療構想は国の財政破綻を避けるために必要であることは十分に理解できるが、プレミアム商品券のような思い付きの政策にならないことを望みたい。

病院スタッフコーナー

病院祭を通じて地域との交流をしています



山口県厚生農業協同組合連合会
周東総合病院
医事課長 久保 崇彦

当院では、病院スタッフと地域住民との交流の場として病院祭を開催しています。健康について関心を持ってもらい、また、当院の事をもっと知ってもらうために行っているこのお祭りは、病院を改築した平成20年から始めて今年で8回目となります。同規模の病院祭は県内でもまだ少ないかと思えます。

お祭りには1000人以上の来場者があり、無料検査コーナー、がん講演、子供コーナー、模擬店など、子供から大人まで楽しんでいただいております。特に最後に行うもちまきは人気です。

当院の病院祭の特徴は実行委員長を持ち回りで各部所から出している事です。今まで、医事課・地域医療福祉連携室・リハビリテーション科・薬剤科・看護部・医局が実行委員長を務め、今年は臨床工学科が実行委員長を務めます。お祭りの日は医師や看護師、コメディカルなどが一緒になって焼き鳥を焼いたり、フリーマーケットを行ったりと普段の仕事では見られないスタッフの一面を見ることができ、病院全体の一体感があります。

（写真は病院祭スタッフ用ポロシャツです）当院では、この他にも地域のお祭りに積極的に参加しており「地域に信頼される病院づくり」を目指しています。

今年度は地元消防による「はしご車の体験搭乗」など多くの企画をご用意してみなさまのお越しをお待ちしています。お時間があればぜひお立ち寄りください。

【 第8回 来てみんな 感謝祭 】

日時：平成27年10月17日（土）10：00～15：00

場所：周東総合病院（駐車場・玄関ロビー・他）

舞台裏から表舞台に立つ薬剤師へ



独立行政法人地域医療機能推進機構
徳山中央病院
薬剤師 大森 義朗

当院は一般病床519床を有する急性期の病院です。高度な医療の提供を目指すとともに、救命センターや屋上ヘリポートを有し、地域の急性期医療を担っています。また、年間の外来化学療法件数は約4000件、入院化学療法件数は約3000件と抗がん剤による治療を受ける患者さんが多く、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。

さて、私が普段働いている所は外来化学療法室という場所です。私を含め、3名の薬剤師が輪番で担当しています。従来、病院薬剤師は中央に引きこもりがちでしたが現在では、当院も含め薬剤師の病棟配置が各地で広がり、本当の意味でのチーム医療がなされようとしています。その先駆けとして当院では3年前から本格的に外来化学療法室へ薬剤師が配置されました。主な業務内容は、点滴に来られた患者さんに対して服薬指導を行う、看護師と協同して副作用のモニタリングを行う、医師へ支持療法などの提案を行う等です。

もう一つ重要な役割があります。それは初回面談です。治療を受ける患者さんに薬剤の効果と副作用、相互作用やその他の特徴などの情報を提供します。心がけていることは次の3つです。①薬を扱うプロだという誇りを持っていること ②知識を押し付けず患者さんに応じて言い方を変え不安を煽らないこと ③すでに使用している薬剤との相互作用やアレルギー歴などを見逃さないことです。患者さんはもちろん、医師や看護師の顔を見て、自分の顔を見せて対話することにやりがいと責任を感じています。「目の前の患者さんへ安心で安全な医療を提供し、治療が継続できるように尽力する」という信念に基づいて今日も奮闘しています。

病院スタッフコーナー

チーム医療の中で夢叶う



総合病院
山口赤十字病院
管理栄養士 山田 傑子

「チーム医療」そんな言葉が流れ始めるずっと前、私は山口赤十字病院に就職しました。給食管理業務主体の当時、病棟へ赴くのは、特別食を提供している患者さんへの食事説明程度でした。

その後熱意ある先生方と出会い、糖尿病チームに参加。次に、緩和ケアチームにも参加。緩和ケアに関わることでベッドサイドへ赴き食べられない患者さんの病態に丁寧に寄り添うこととなりました。緩和ケアの患者さんだけでなく全科の患者さんに「口から食べていただくこと」にこだわり、詳細な個別対応を実施、充実させ、患者さんと接する栄養管理業務は日常業務の一つになりました。

提供するお食事も、「日赤レストラン」と患者さんに言われるほど、クオリティの高いものを調理師さんが作ってくださいます。

2005年、栄養サポートチームが稼働。多岐にわたる専門スタッフと連携し、チーム医療を展開しています。経口摂取だけでなく、経腸、静脈栄養と全てを統合した栄養管理技術が求められ、今後は、さらにタイムリーな栄養管理を目指して進むことに。

入社当時「名前と呼ばれる栄養士になりたい」と会報紙に夢を書きました。いつの頃からか、担当病棟のスタッフの方々から「山田さん」と呼ばれ、そういえば「山田さん」と呼んでくださる患者さんも。入社当時の夢が叶っていたことに気づかされます。患者さん、栄養課の仲間、医療スタッフの方々、出会った全ての方々のおかげです。

『全ては患者さんのために』この気持ちを忘れず、患者さんの心により添える管理栄養士でありたいと思います。

地域連携課の看護師として



医療法人社団 季朋会
王司病院
副看護部長（地域連携課兼務）

麻生 太郎

当院は下関市の東部に位置し、医療療養病棟・回復期リハビリ病棟・認知症治療病棟の特色ある病棟編成をもつ295床の病院です。診療科も、内科・皮膚科・整形外科・泌尿器科等を有し、患者さんを総合的にサポートする体制が整っています。本年度より「自分の家族を入院させたい病院づくり」を新たな目標にかかげ、全職員が一丸となって取り組みを始めました。

「自分に勤まるだろうか？」とドキドキしながら地域連携課に配属となった平成22年以降、医療・介護を取り巻く様々な変化に四苦八苦しながら、まさに「あっという間」に5年が経過しました。地域連携課における看護師としての役割は多岐に渡り、急性期病院や地域の保健・医療機関から入院依頼される患者さんの窓口となり、社会福祉士や

精神保健福祉士と協働しながら、入退院の調整や、入院中の心理的・社会的問題の解決・調整のお手伝いなどを行います。さらに、脳卒中パス連絡協議会などの地域活動へ参加し、普及・啓発にも関与しています。5年経った現在も、地域連携の業務がいかに難しいものであるかを痛感しながらの毎日ではありますが、配属当初から心掛けて、スピーディ・正確・明るく丁寧な対応、軽快なフットワーク（要ダイエット）を念頭に、地域連携課看護師として日々成長していきたいと思っております。

医療懇話会報告

平成27年6月19日（金）午後4時より山口市湯田温泉西ノ雅「常盤」において、平成27年度医療懇話会が開催された。

山口県健康福祉部からは小松部長ほか14名、山口県病院協会からは木下会長ほか16名が出席した。

初めに木下山口県病院協会会長の挨拶があり、次に

小松山口県健康福祉部部長の挨拶に続いて、健康福祉部の各課長から平成27年度の山口県健康福祉部の事業概要について説明があった。

その後質疑応答が行われ、現在最も関心度の高い地域医療構想に係る諸問題等について活発な意見交換が行われた。



小松部長挨拶



木下会長挨拶



医療懇話会風景

なお、事前に次の質問事項・要望事項等の提出があったが、それぞれに回答が為された。

・地域医療構想策定「支援ツール」による全国の必要病床数が発表されたが山口県でも発表されるのか。

・日本創生会議の東京周辺の高齢者の地方への移住を促すべきと云う提言は地域医療構想策定に影響を与えるか。

・健康寿命は2つの方法で決められているが、山口県はどの方法で行っているか。また、その客体数はどれ位か。

・次期医療計画策定までのスケジュールと基本的な考え方について、目下、地域医療構想策定協議が始まったところであるが、当面は、平成30年の医療計画と介護支援計画の同時策定に向けて、過密なスケジュールをこなしていく必要があり、改めてその想定される日程と、その進め方の基本的な考えを伺いたい。

・これからの医療提供体制の再編成を考えるにあたっては、在宅医療・居宅介護サービスの確保が不可欠であるが、残念ながらなかなか普及が進まない実態がある。地域医療構想の策定に当たっては、在宅医療・居宅介護サービスの普及拡大を数量的にどの程度見込み、またそれを実現するためにどのように施策を進めるか伺いたい。

・限られた資源を如何に有効に活用するかが、2025年に向けての超高齢社会における医療・介護対応の基本戦略と思うが、その点でICTの活用の促進にもっと積極的に取り組むべきではないか。

・急速に増加が進む高齢者の、疾病特性を踏まえて、特定看護師の育成促進にスピード感をもって取り組むべきではないか。

・「慢性期機能の入院受療率の地域差を、一定の幅の中で縮小させる目標設定について」に関して、日本国内、地域によって高齢化率は大きく異なっているが、この高齢化率の地域差は目標設定に配慮されるのか、されるとすれば、その具体策は如何。

・一般の日本創生会議の発表で「2040年までに896の自治体が消滅する」とあり、当地はその消滅地域に入っている。

その消滅予想地域の問題として、在宅医療の推進に関わる医療介護スタッフの確保問題が必ず存在することとなるが、良い解決策はあるか？



諸会議報告

平成27年度 第2回理事会

日時 平成27年7月10日（金）15：30～17：00
開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 夏季医療経営講習会について
2. 山口県肝疾患コーディネーター養成講習会後援のお願いについて

【協議事項】

1. やまぐちがん検診受診促進優良企業・団体知事表彰について
2. 科学技術、創意工夫に関する平成28年度文部科学大臣表彰の受賞候補の推薦について

【報告事項】

1. 公益目的支出計画の実施完了の確認書について
2. 医療機能分化連携推進事業について
3. 保健医療の審査に関する意見・要望の聴取について
4. 県行政委員等の推薦について
・宇部市都市再生推進協議会委員
監事 尾中 宇蘭（新任）
5. 県各種委員会等の結果報告について
三浦副会長
・山口県予防保健協会定例理事会
・山口県看護協会通常総会
西田理事
・山口県公衆衛生協会平成27年度第1回理事会・評議員会
天津事務局長
・山口県医療勤務環境改善支援センター設備準備会
・山口県予防保健協会定例評議員会
6. 27年度事務局構成について

山口県病院協会地域医療委員会

日時 平成27年7月22日（水）15：00～
開催場所 山口県県政資料館

地域医療構想策定に関わる山口県における必要病床数の推計結果について山口県健康福祉部医療政策課医療企画班廣川班長から説明を受けた。

厚生労働省が示した「地域医療構想策定ガイドライン」に基づき、レセプトデータや「地域医療構想策定支援ツール」により算定した「構想区域ごとの医療需要の推計」を基に、各医療圏の地域医療構想策定協議会において医療需要に対する医療提供体制

を検討し医療供給を踏まえた必要病床数を推計したものであると説明を受けた。

なお、国は必要病床数については「達成を目指す指標」「不足している医療機能の充足などを求めるもの」「必要量を超える病床を機械的・強制的に削減しようとするものではない」としている。

平成27年度 第3回理事会

日時 平成27年9月17日（木）15：30～17：00
開催場所 山口グランドホテル

【議事次第】

1. 一般社団法人山口県病院協会職員服務規程の一部改定について

【承認事項】

1. 会員病院の新規入会について
2. 第12回山口県ケアマネジメント研究大会への後援依頼について
3. 中堅看護師研修会について
4. 病院看護師長研修会について
5. 病院看護補助者・介護職員研修会について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
・健康やまぐち21推進協議会委員
理事 内山 哲史（再任）
2. 地域医療構想「医療需要の推計」について
3. 「医療機能分化連携推進事業」について
4. 県各種委員会等の結果報告について
木下会長
・第88回山口県医療審議会医療法人部会
三浦副会長
・平成27年度第1回山口県社会福祉審議会
天津事務局長
・山口県配偶者暴力相談支援連絡協議会
・山口県男女共同参画推進連携会議
・輝く女性応援会議 in 山口
・平成27年度山口県救急医療功労者知事表彰

【その他】

1. やまぐち子育て連盟総会の開催について

平成27年度 第2回情報管理委員会

日時 平成27年9月18日（金）15：00～
開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 10月号の発行について
2. 新年号の発行準備について

事務長部会コーナー

平成27年度 第1回事務長部会常任幹事会

日時 平成27年9月17日（木）14：00～15：30
開催場所 山口グランドホテル

【協議事項】

1. 平成27年度第2回事務長部会研修会について
・医療事故調査制度について
・マイナンバー制度について
・平成28年度診療報酬改定について
2. 女性活用推進法案について



お知らせコーナー

山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、次の病院に決定し、9月15日山口県庁において伝達されました。

おめでとうございます。

社会医療法人同仁会 周南記念病院（理事長 竹重 元寛）



第14回日本医療マネジメント学会山口県支部学術集会

日本医療マネジメント学会山口県支部学術集会が、周南市で開催されますのでご案内いたします。

テーマ 「リビングウィルのあり方」

開催日 平成27年11月7日（土）13時～17時

場 所 周南市文化会館（周南市徳山5854-41）



表彰状を披露する竹重理事長（左から2人目）ら

会員病院の新規入会

独立行政法人国立病院機構 山口宇部医療センター
病院長 上岡 博

会員等の異動

会員の変更

- ・ 周東総合病院 病院長 馬場 良和（変更前 病院長 守田 知明）
- ・ 山陽小野田市民病院 病院長 山本 智久（変更前 病院長 瀧原 博史）

病院協会事務局の人事異動

- ・ 6月15日 退職 事務局次長 磯村 裕昭 お世話になりました。
- ・ 8月1日 採用 事務局 志賀 佳絵 宜しくお願い致します。



山口県病院協会の主な行事予定

- 11月5日 第4回理事会（会場：新山口ターミナルホテル）
- 11月18日 中堅看護師研修会（会場：山口県セミナーパーク）
- 12月16日 病院看護師長研修会（会場：山口県総合保健会館）
- 12月18日 第3回情報管理委員会（会場：新山口ターミナルホテル）
- 12月22日 病院看護補助者・介護職員研修会（会場：山口県総合保健会館）
- 1月9日 第11回医療関係団体新年互礼会（会場：ホテルニュータナカ）
- 1月22日 四県病院協会連絡協議会（岡山市）

編集後記

今年の夏は短くて、いつの間にか秋を迎えた気がします◆それにしても、なんとまあ自然災害がこんなに続くのでしょうか。地震・火山活動・大雨等々、さらに台風に至っては複数個がいつぱんにやって来るようになりました。これも地球温暖化の影響でしょうか。被災された方々には深くご同情申し上げますとともに、早期の復興をお祈りいたします◆さて、われわれ医療界に目を向けますと、これらの災害と同じように頭の痛いことが次々に起こっています◆地域医療構想・新専門医制度・医療事故調査制度等々、協会役員コーナーの尾中監事の言葉をお借りすれば、まさしく目まぐるしく「変わる（医療の）セカイ」となって来ています◆これら全てが明確な原因があるのですが、国の施策はいつも後手後手に回っており、本当の原因解決には至りません◆担いだ荷が重いそんな医療界ですが、スタッフコーナーからは「地域連携」「チーム医療」等々、若い世代からの頼もしい声が聞こえてきます◆さあ、時代は変わろうとしています。みんなで知恵を絞って、力を合わせて乗り切ろうではありませんか！（水田英司）